



WAVE

66

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

2019年5月

Contents

2, 3 20周年記念フォーラム報告

4 ワーカーズ・コレクティブを
すすめるまち川越市

連合会発足20年

分かち合いたすけあう 社会をめざして

市場経済の海を泳ぐ小さな魚のようなワーカーズ・コレクティブ。つながり、力を合わせ、少しづつ仲間を増やしてきました。

一人ひとりが尊重され人間らしく働く職場を増やし、どんな人にも生きやすい社会を広げることをめざします。



1987年埼玉に最初に誕生したワーカーズ・コレクティブは生協の受託業務を行う事業所でした。それから11年後の1998年10月、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会が設立されました。会員20団体・300人に成長していました。

つながり力を合わせることで、一つ一つは小さな事業所でも大きな力を作り出すことができます。ワーカーズどうしの情報交換や学び合い、この働き方を社会に広めていくための運動を発信する基地としての役割を担い連合会は始まりました。第1回の連合会総会議案書には当時の雇用情勢を「男女平等の名のもとに実力主義と競争社会を推進し、社会的弱者を排して若者はフリーター化する、勝ち組だけが存在しうる社会を目指している」と危惧し、社会の健全化に地域市民事業の必要性と重要性を訴えています。この20年、グローバル経済の偏重による格差の拡大とともに大きな不況の波や災害を経験し、複雑化、深刻化する経済、雇用状況があり、さらに私たちの不安は大きくなっています。

そのような中で地域の課題をとらえ小さな市民事業を行うことで自分たちの社会を少しでも良くしていきたいと考える仲間たちが少しづつ増えて、現在43団体・会員490名となりました。生協の受託業務事業、仕出し弁当や施設の食事提供、コミュニティレストランなどの食事業、地域福祉の担い手となる生活支援事業や介護保険事業、リサイクル事業、石けんによる清掃事業、企画編集事業など種類も多岐に及んでいます。仲間たちは日々の業務に追われながらもワーカーズ・コレクティブとしてお互いを尊重し、一人一人が経営を担い、地域社会に向き合っています。そしてこの働き方が社会に広く知られ多くのワーカーズ・コレクティブが起ちあがることで、分かち合いたすけあう社会が広がることを望んでいます。

2019年7月には第21回総会を迎えます。連合会は益々社会の健全化に目を向けワーカーズ・コレクティブ運動を進めています。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会
会長 清水悦子